2012-05-09 長尾健太郎氏の筆中構義(2)

§2 カスプ付き Riemann面の Teich müller 理論

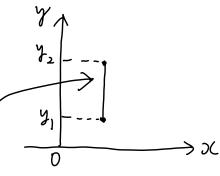
黑七記記

§2-1 上半平面モデル

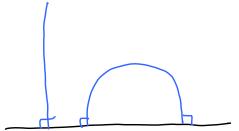
$$\mathbb{H}^2 = \{ (x,y) \in \mathbb{R}^2 | y > 0 \} = \{ z \in \mathbb{C} | Imz > 0 \}$$

$$H^2$$
上の計量 $ds^2 = \frac{dx^2 + dy^2}{y^2}$

選①
$$\int_{y_i}^{y_i} \frac{dy}{y} = \log \frac{y_i}{y_i} = (右の鍛金の巨さ) y_i$$

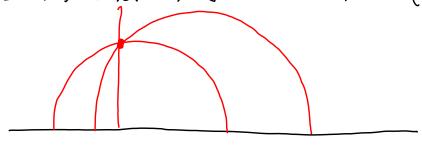


② 瀏地線は



建 別地線を『直線』と定義することで 非ユークリッド発向の例となっている

第5公理 M 城立(2n (1~4 12 城立中了)



$$ds^{2} = \frac{dx^{2} + dy^{2}}{y^{2}}$$

$$\begin{cases}
Z = x + \bar{x}y \\
x \in \mathbb{R}, y \in \mathbb{R}_{>0}
\end{cases}$$

§2-2. 等長変換

SL(2,R)

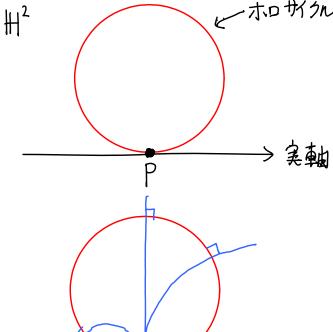
 $PSL(2,\mathbb{R}) := \left\{ \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \in M_2(\mathbb{R}) \middle| ad-bc=l \right\} / \left\{ \pm E \right\}$

 $Z \mapsto \frac{az+b}{CZ+d} は H^2 の 計量 ds^2 を 係つ.$

PSL(2, R) はH2に等長変控として作用する.

双曲幾何ではH2の開導会を等長重握ではりあわせた Rieman的接体に関する幾何のことでする

§2-3 ホロサイクル

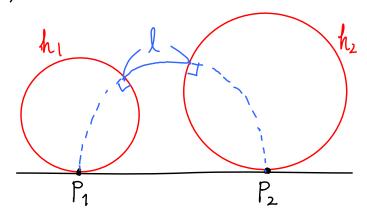


Hの境界に接する (ユークリット語句の意味での) 円周のことを ホロサイクルと呼ぶ、 (Pを中心とするホロサイクルと呼ぶ)

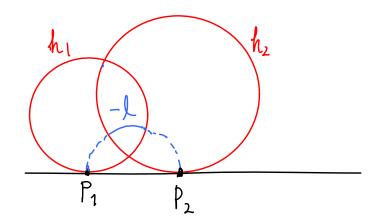
Pに収まする週地線に Pを中心とするホロサイクルと 直をする

§2-4 入距離

h, h は これでれ Pi, Po を中心とする ホロサイクルであるとする



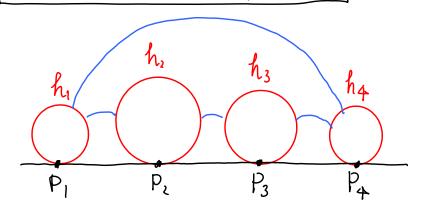
P. とP. をもアルりは銀の かとんったはさまれた部分 の(符号はき)長さを し(れっん)と書き 入(れっん):=~(exp(し(れっん))



加回の場合は一倍了る

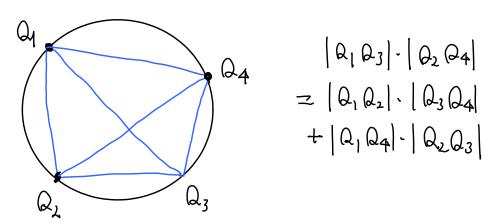
レポート れ、を中心ス、としユークリットで半径 ri (i=1,2)のナロサイクルでする し(れれ)とずめる

入距離に関する Ptolemyの定理



 $\lambda(h_1, h_3) \lambda(h_2, h_4)$ $= \lambda(h_1, h_2) \lambda(h_3, h_4)$ $+ \lambda(h_1, h_4) \lambda(h_2, h_3)$

选次のPtolemyの定理の類似:



レポート 入距離に関する Ptolemyの定理を延りせる

[Penner, Commun. Math. Phys. 113, 299-339 (1987)]

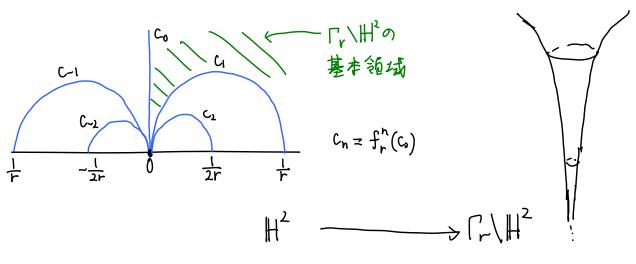
選最終的に円月4点上の弦に停着される

re
$$\mathbb{R}_{\pm 0}$$
, $\Gamma_r := r\mathbb{Z} \subset \mathbb{R} \hookrightarrow \mathbb{P}^sL(2,\mathbb{R}) \curvearrowright \mathbb{H}^s$

$$C \mapsto \begin{bmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ c & 1 \end{pmatrix} \end{bmatrix}$$

 $V \in \Gamma_r \cap H^2$, $f_r(z) := \frac{z}{rz+1}$ と定める

frの作用は唇点と唇点を中心とする木のかりんを得つ。



これ909近傍を <u>カスフ</u>。と呼ぶ

「10]は0中心のホロサイクルを保つので, H2上のロ中心のホロサイクルはアノH2上の閉曲欲を与える ((ここで体みをとる 16:13~16:28 とらい))

\$2-6 Teichmüller 空間

 $\sum C \pm n 双曲構造で$ Cにカスプを持つもの全体 $Aut^{\circ}(\Sigma,C)$ =: $T(\Sigma,C)$

ここで $Aut^{\dagger}(\Sigma,C):=\{\varphi: \Sigma \Rightarrow \Sigma, 白をを得っ、<math>\varphi(C)=C\}$ $Aut^{0}(\Sigma,C)$:= $(Aut^{\dagger}(\Sigma,C) \circ id_{\Sigma} 2 含む連殺協分)$ $MCG(\Sigma,C) := \pi_o(Aut^{\dagger}(M,C)) = Aut^{\dagger}(\Sigma,C)/Aut^{o}(\Sigma,C)$

構成について(T(Z,C)の) (かまけ)

$$Hom'(\pi_{I}(\Sigma \setminus C), PSL(2, \mathbb{R})) =$$
 $\begin{cases} P: \pi_{I}(\Sigma \setminus C) \rightarrow PSL(2, \mathbb{R}), \\ - 草射群導凤型 \\ - 傷 か離散的 \\ - ヤ ce C に対い Cの同りを1周する$

不(INC)の元を放物的な元に うつす。 ctr=2

$$H(\pi_1(\Sigma \setminus C), PSL(2,\mathbb{R}))/PSL(2,\mathbb{R}) = T(\Sigma,C).$$

$$U$$

$$[P: \Gamma = \pi_1(\Sigma \setminus C) \rightarrow PSL(2,\mathbb{R})] \longrightarrow \rho(\Gamma) \setminus H^2$$

decorated Teichmiller 空間

$$\widetilde{T}(\Sigma,C) = \left\{ (P, (h_c)_{ceC}) \middle| P \in T(\Sigma,C), h_c : C \neq NO 9 + D \neq 1/9 L \right\}$$

$$T(\Sigma,C) = \left\{ (P, (h_c)_{ceC}) \middle| P \in T(\Sigma,C), h_c : C \neq NO 9 + D \neq 1/9 L \right\}$$

これの fibier は
$$(\mathbb{R}_{>0})^{|C|} = \{(h_c n * \mathbb{E})_{c \in C}\} \cong \{(h_c)_{c \in C}\}$$

$$\widetilde{T}(\Sigma,C) \ni$$



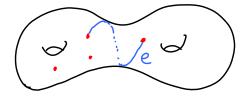
かよっサイクル

$$T(\Sigma,C)$$
 \ni



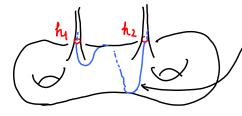
Penner座撑

eはCの生を扱い 曲錠



(eをup to homotopy) できえる)

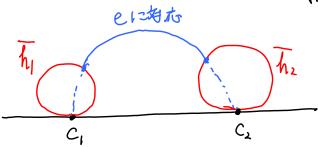
 $(P, (h_c)_{c \in C}) \in \widetilde{T}(\Sigma, C)$



e も 実現する 週 地獄 2つのホロサイクルの間の延離を le(p,(h)cec) とおく

 $\mathbb{I}(\overline{h}_1,\overline{h}_2)$

これも出って田子アると



$$\lambda_{e}(\rho, (h_{clcec})) = \sqrt{\exp l_{e}(\rho, (h_{clcec}))} = \lambda(\overline{h_{l}}, \overline{h_{l}}).$$

Theorem [Penner]

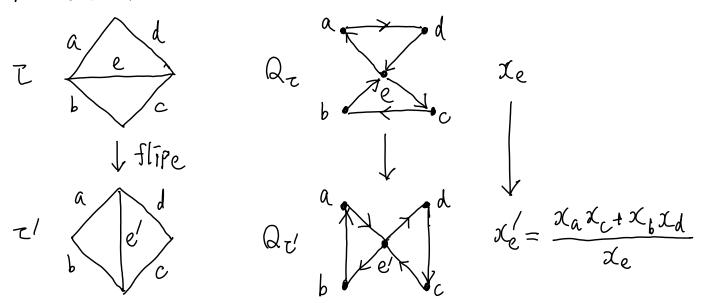
ては(∑,C)の三角形分割でするとり 巨に石(辺の尊金)とする.

(1)
$$\Upsilon(\Sigma,C) \xrightarrow{\sim} (\mathbb{R}_{>0})^{E}$$

 $(\rho,(h_c)_{c\in C}) \mapsto (\lambda_e)_{e\in E} = (\lambda_e(\rho,(h_c)_{c\in C}))_{c\in C}$

$$\chi_{\tilde{\lambda}} = \lambda_{\tilde{\lambda}}$$
 if $\tilde{\lambda} \neq 0$ (角则). 元亿 Ptolemyの定理が,
$$\chi_{e'} = \frac{\lambda_{a}\lambda_{c} + \lambda_{b}\lambda_{d}}{\lambda_{o}}.$$

注 これはてに対応するgriver Qでに対するクラスター変換に他ならない



写像類群の作用

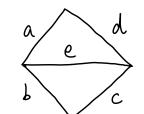
 $[Y] \in MCG(\Sigma,C) = \pi_0(Aut^+(\Sigma,C)) \circ \Upsilon(\Sigma,C) \land \circ \uparrow \Sigma_{\overline{A}}.$

中:てトンタ(て) (新しい三角形分割) ([Fomin-Schupino-Thurston]

ヨflipの引 て → で → ··· → P(C) か存在に 対応する cluster変換の分成によて[4]の作用と記述できる てと9(t)による別の座標の入れるをclusterを挽び 比較できる

Fock座標

· 七:三角形分割, 已: 七9辺, 《 e 》 七以水沉阳却以



29 Fe は T(I,C)の上の函数にからる

 $\Upsilon(\Sigma,C)$ Fe $\Gamma(\Sigma,C)$ $\Gamma(\Sigma,C)$

• $C \in C$ $C \notin V$ V E_c : $F_c^t := \sum_i F_{e_i}^t \text{ where } V$

このとき、下でこの、 (このまわりをぐるっとまれる知を取ると)し、たるかやもひもんする)

Theorem [Fock]

 $T(\Sigma,C) \xrightarrow{\sim} \{(F_e)_{e \in E} \in \mathbb{R}^E | F_c = 0 (\forall c \in C)\} \cong \mathbb{R}^{|E|-|C|}$

 \not \bot \bot $(\Sigma,C) \longleftrightarrow \cancel{x}$ -variables , $\top(\Sigma,C) \longleftrightarrow \cancel{y}$ -variables

選 明日使うのは今日の話の複奏化"版。 すべてか代表的れ悪けているので発達化"できる $T(\Sigma,C)_{C}=C^{|E|-|Q|}$ MCG

これは、 $Hom'(\pi_I(\Sigma \setminus C), PSL(2,R))$ のRもCに整えたものに始応するはずなが、Hom'の "'" の多体についてはまじめれ考えてないのでもからない、

3次元の双曲幾分とも関係して事了ことを明日記明する